

第2号

町自連だより

発行/八王子市町会自治会連合会 発行責任者 田中 好雄
〒192-0063 八王子市元横山町1-29-3 ☎ 648-6110

静岡県の 地震防災センター を訪ねて!

今年の研修会テーマは、最近続発している地震災害に備えて「東京直下型及び東海沖地震に備えて」とし、静岡県の「地震防災センター」を視察し体験する事で、町会自治会の自主防災活動に活かしてもらおう事とした。

十一月二十三日から一泊二日間の日程で出掛けた。今回は行政から防災課長と協働推進課長に同行して頂き、先ず研修と言う事で、静岡市にある「静岡県地震防災センター」を訪ねた。

今までに立川防災館では数回経験しているが、違いを中心に報告したい。

先ず建物に入ると、エントランスホールには過去にあった津波を表示した垂れ幕があり、その高さに驚かされた。地震体験コーナーでは、上下動だけでなく左右・前後の三方向の揺れが体験できた。

耐震コーナーでは、建築中の実物大を展示して耐震補強工法が分かりやすく展示されていた。又、防災ベッドや非常持ち出し品等も展示されていた。

静岡ならではの津波ドームシアターでは、津波対策された部分と対策の無い部分を対比してあったが、水を使った部分では迫力に欠け物足りなかった。むしろ画面のみの方が良かったのではと感じた。



家具の固定対策コーナーでは、色々な固定器具が紹介されており、個人が訪ねても参

考になるのではと感じた。

自主防災組織コーナーもあり、活動の紹介や、可搬ポンプ・炊飯器・ろ水機・救助用工具等、装備なども紹介されており自主防災の組織として準備するのに参考となった。

災害時に個人が準備する必要があるもの等色々展示されていて参考になった。特に災害時用の「トイレ」が展示されていたので、チラシのコピーをもらって参考にした。

全体的には三階建てで特に大きくはないが、個人が防災対策を考える場合に、参考となるものが多く見受けられた。さて、地震防災センターを出ると宿泊地の伊豆長岡温泉を目指し、ホテルに到着後は夕食を参加者の懇親の場として和やかなうちに楽しいひとときを過ごした。

田中会長

総務大臣表彰受賞!

団体功労者として

平成十七年十一月二十一日に総務省において「地縁による団体活動の功労者」として

表彰された。

町会長として、川口地区連合会長として、八王子市町会総連合会長として更に八王子市町会自治会連合会長として、又、川口やまゆり住民協議会会長としての総合的な活動が認められ今回の表彰となった。



平成17年度地縁による団体功労者総務大臣表彰式

私たち町自連の会長がこのような名譽ある表彰を受賞されたことを皆さんに報告すると同時に、共に喜び合い、励みとしてこれからも田中会長の活動を支えていこうではありませんか。

町会・自治会のアンケート 草案まとめの実施

市内全域を網羅した「町自連」が平成十四年に発足して四年間、いろいろな体制や組織基盤が確立されたなかで、着々と実績を上げてきているが、各町会・自治会の実態についてまで把握しているわけではない。又、行政としても最近の内容は把握していないのが事実である。

町自連は発足したものの市内には、未加入の町会自治会が数多くあることも事実。

これからは行政と町会自治会が「協働」で事業を展開したり、行政が組織を通して支援やアドバイス等を行うケースが多くなると考えられる。個人や単一組織では、解決できない問題が起こり得ることも考えられる。

今後の社会現象の変革から町会自治会のあり方もどのように変貌していくか、住民の意識がどう変わっていくのか、町会自治会のリーダーの後継

者問題等、町自連として対応すべき問題が山積している。

一方で、地域社会に期待される部分も大きくなってきている。防犯対策・青少年問題・少子化問題・高齢者を含めた福祉問題等、地域社会のあり方と同様に期待されている部分のウェイトも上がってくる。市当局所管の市民活動推進部協働推進課と町自連が協働で、この調査に必要なアンケート作りを進めてきた。



事務的な事項の他に町会・自治会の責任者が、現時点で組織の組み立て方、老人クラブや子ども会、婦人会、地域

の各種団体との協力関係のあり方等、又、運営面では人間関係や役員の選び方等の意識調査部分と、行事やまつり、募金活動や交通・防犯・防火防災活動の現状等、高齢化に伴う活動の低下、更には、会館の管理や会館利用の内容等特筆項目もある。

特に、今回調査の特筆すべき点は、IT(特にパソコン)の導入問題にある。現時点での利用状況の実態把握と、今後の利用に関する調査項目では、今後進むであろうパソコン利用についての悩みや問題点を明らかにする事で、行政の情報伝達や情報開示の利用とあわせて今後の資料とする。又、現在抱えている悩みや問題点は何なのか、日常生活のなかから、祭礼や伝統行事等、現在とそして将来への考察、五年・十年後の変貌を勘案した項目作りに取り組んでいる。

今年度に調査表の記入をお願いし、集計後は、その分析から考察まで一連の作業を完了させて結果を皆さんの元に報告する事をお約束して、調査への全面的な協力をお願いする。

更なる「ごみ減量と発生抑制を！」

八王子市が「ゴミの「有料化」を実施するにあたって日の出町にある「ゴミ最終処分場」が、既に三分の一が埋め立てられ、その延命化を図ることが大きな使命として取り上げられ、更に、市民が排出する「ゴミ」のなかには、資源として活かせるもの、リサイクルできるものが多く含まれていることから、環境負荷の低減、二酸化炭素(CO₂)の削減等を目的としており、「有料化」計画に対し私たち「町自連」は全面的に協力する方針を決定し、行動してきた。

先ず、行政の取組み理由や有料化によるごみ減量の効果等についての説明会に積極的に協力し、事前説明会を百回町会自治会等での説明会も千六百回を超えた。行政も全管理職・環境部職員の休日返上の並々ならぬ努力が伺える行動であった。

私たち「町自連」としても、既に有料化を実施している先進都市への研修会(平成十五



分別の良い例



分別の悪い例

年は茨城県のひたちなか市、平成十六年には愛知県の一宮市)を実施し有料化に関わる「効果」「不法投棄」等の予備知識を習得した。

市の減量目標は、ゆめおりプランに示された二十五%の減量と、四〇%のリサイクル率を掲げた。その目標値を、市広報と併せてPRと説明を行政と共に「町自連」が一体となつて進めてきた。

有料化実施後一年を経過した時点での成果を検証してみると、三十二%のゴミ減量を達成し、環境負荷についても二酸化炭素が十一・七%減、焼却灰が二十三・八%減を達成し、経費的にも一億五千五百万円を緑の基金に積み立てる実績を上げることができた。

しかしながら、有料化一年を経過する段階で、当初の分別意識、ごみ減量の意識にマンネリ化が生じて、最近増加しつつある現実を知らされている。

「自分ひとりくらいは大丈夫」「これくらいは分別しなくても良いだろう」と安易な気持ちでは折角の効果が無くなり、今までの苦労が「水の泡」となってしまう。

今からでもスタート時点の決意を思い起こして、地域全体で「分別の大切さ」の再教育や、不法投棄への監視の目を光らせて、町会自治会と行政の協力体制を維持していくことが重要である。

ゴミの発生抑制では、供給元である製造業者・販売店等流通業者の協力が大きな課題である。「包装の簡素化」「ばらうり」「レジ袋問題」詰め替え商品」等、今後のごみ減量対策の大きな課題である。

製造・流通・小売店等の業者と行政、消費者である町会自治会の三者が強固な協力体制を確立して、リバウンド現象に歯止めをかけると同時に、更なる減量へチャレンジする事が不可欠である。

可燃ごみについては、生ゴミの「水切り」による減量化とか「堆肥化」「バイオガス化」等による資源化を推進する事、不燃ごみについては、プラスチック類の資源化推進が、ゴミ減量の大きな力となる。

又、一般ゴミは減少しているが、事業系のごみについては減っていない現状があり、この事業系ごみの減量対策も急務である。

地域のあれこれ

伝統と地域性がある

加住地区！

加住地区連合会

会長 細井 衛

加住地区は、八王子市の北部にあり十四町会で加住地区町会自治会連合会を構成している。

北側には都立滝山自然公園があり、四千本もの桜があつて東京都内でも有数の「桜の名所」と言われている。

また、道路にも恵まれており、東には中央道八王子インターチェンジと国道十六号線中央には国道四一―号線滝山街道と八王子バイパス、そしてひよどり山有料道路、西側には国道四一―号線滝山街道と高尾街道等、自然と道路の環境の良い加住地区である。

加住地区連合会では毎月第二土曜日に定例会を開催し、地域の活性化等諸問題を取組むと同時に町自連役員会の報告も行っている。特に「防犯」問題について

は「自分たちの町は自分たちで守る」を合言葉に、加住地区連合会が中心となり各種団体とともに毎日「防犯パトロール」を実施している。併せて、各町会自治会でも週二回「四回「防犯パトロール」を実施していることから、空き巣等の犯罪も減少している。最近では、駐在所の署員と地域住民が協力して犯罪者を逮捕した例もある。



学校と協力して町会自治会毎の懇談会を開催し、一月には中学生・小学六年生を対象に「懇親交流会」も開催している。

今後も地区住民が、安心して暮らせる住みよい町づくりと地域活性化のために、加住地区連合会は十四の町会自治会と力を合わせて地域住民とともに頑張ります。

厚木市の

防災の丘公園を訪ねて！

横山地区連合会

会長 伊藤義正

横山地区連合会では年間行事として、町会自治会幹部の皆さんの研修会と親睦を兼ねて日帰り旅行を実施している。以前は一泊二日で行っていたが、一人でも多くの参加を目標に日帰りに変更した。近距離の研修地は数に限りがあり、道路事情も含めて毎年苦労している。

従来は、二、三月に実施していたが、今回は十二月初旬に変更したところ、三十四団体中二十二団体四十五名の参加を得ることができた。厚木市の防災の丘公園は、市の防災機能の充実と併せて

里山の景観に配慮した総合公園で、広域避難場所に指定された「防災公園」である。

面積は、東京ドームの約二倍で、多目的広場と公園、設備は、鉄筋コンクリートの二階建(二千五百九十九㎡)で、中には通信施設や防災備蓄倉庫があった。二階の会議室で職員より説明を受けたが、この部屋も簡易ベット六〇床の傷病室になるとのこと。

又、この公園の特徴は、公園内に二百十基の簡易トイレが組み立てられる設備がある。非常用品も、幼児から老人・障害者まで備蓄されていた。更に、犬・猫の収容用具飼料まで保管されていた。

八王子市でも、他市に負けない対策はとられていると思うが、防災には各行政でも力を入れているのが判った。

さて、研修が終わると、楽しい「みかん狩り」に湯河原の蜜柑園を訪ねた。入園料は三百円だが二、三個で腹一杯になりちよつと高いような気もしたが、土産に買ったみかんは、店で買ったものよりおいしいと家族に喜ばれた。

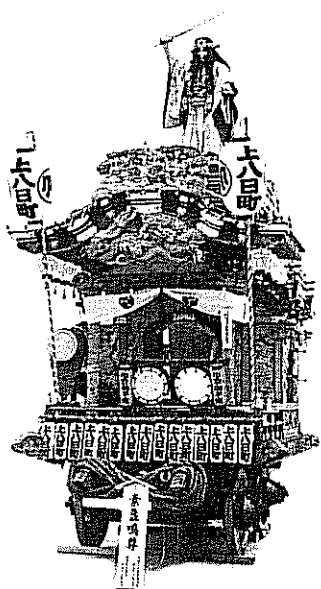
小田原にある県立生命の星・地球博物館は、入館料五百十

円だが、高校生以下と六十五歳以上は無料という有難い施設である。小田原といえどもやげ物で帰路の楽しみ場所となつてはいるが、すぐ近くにこのような博物館があると驚きである。日帰り研修も充実した一日であった。

八王子まつりと コミュニケーション

中央部地区連合会

会長 青木 正明



ヨンが建ち並び大きく変貌しつつある。もともと世帯数や居住人口も他地区とは比べ物にならないほど少ない。その反面、住民同士の意思の疎通が早いのも特徴となつている。毎年開催される「八王子まつり」でも「もつと多くの子どもたちにまつりを楽しんでもらい思い出を残して貰いたい」との考えから、近隣町会にも「まつり」への参加案内をして、山車を引く楽しさを経験して貰っている。

中央部地区は、「八日町一、二丁目町会」と「八日町会」の二町会で構成されているが、現在は、商店会も共同のイベントも行い町会も切磋琢磨し仲良く活動をしている。

中央部地区は、国道二〇号線と国道十六号線が共有している全国でも珍しい地域にある。古くから交通の要所であり、「八日宿」として発展してきたが、現在は高層マンシ

これから、マンション等の新しい住民とも、より一層コミュニケーションを図り、親睦を深め皆さんが安心して暮らせる町になるように、活動をしていく。

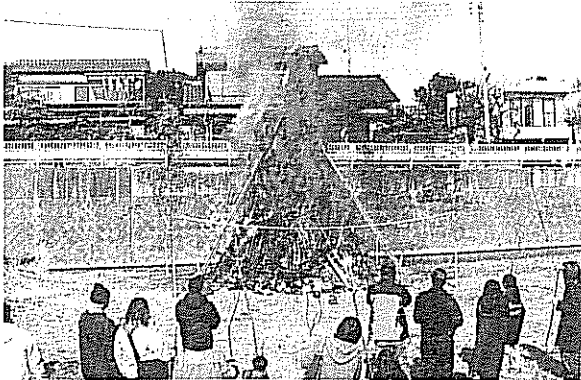
東北部地区

連合会の紹介

東北部地区連合会

会長 坂本 保雄

東北部地区連合会は、その名のとおり市の東北部に位置し、十二の町会自治会で構成され、コニカミノルタ、オリンパス、横河電気等の、日本を代表する精密工業団地を抱え、又、一方で農業も野菜を中心に盛んに行われ市民の生活を潤している。



近年は、急激な開発が進み、緑豊かな山林や畑が宅地化され、人口の増加や環境が大き

く変化しつつある。米軍の横田基地に離着陸する航空機の騒音被害を一番受けている地域でもある。

医療については東海大学病院が建設され、安心して生活ができる基盤が整いつつある。交通機関は、バス路線をはじめ、JR八高線の北八王子、小宮の両駅があり利用客も激増の途にあり、早期の複線化の実現が待たれる。

さて、地区連合会はメイン行事として、正月の「どんど焼き」をはじめ「夏祭り」「福祉の集い」秋には「文化祭」等、小・中学生にも積極的に多数参加してもらい、地域全体が一体となり、多くの皆さんの協力を頂き、年々盛大に開催されている。

編集後記

「町自連だより」も皆さんのご協力により第二号の発行にたどりついた。創刊号については記事が多く硬い紙面となったが、今回は写真を掲載する事で見やすい紙面に心がけた。寄稿頂いた原稿で掲載できなかったことをお詫びします。見やすく読みやすい紙面を心掛けるのでよろしく。